

コソボの男児来日

金沢大で小児がん治療

ユーゴスラビア・コソボ自治州に住み、小児がんの

一種の「網膜芽細胞しゅー

にかかっているアルバニア

人、ネジール・シニツク君

(3)が7日、治療のため両親

とともに来日し、受け入れ

先金の金沢大学医学部付属

病院(金沢市)へ向かった。

北大西洋条約機構(NATO)

O)軍の空襲開始以降、現

地では治療が困難になっていた。

網膜芽細胞しゅーは目にて

きる悪性しゅーよう。6月中旬

旬、コソボで医療活動を続

けていた日本のNPO(非

営利組織)「アジア医師連

絡協議会」(AMDA、本部

・岡山市)の上田明彦医師

がネジール君の母ヒュルメ

ーテさん(40)と出会い「治

療を続けてくれる病院がない。助けてほしい」と頼ま

れた。ネジール君とヒュル

メーテさん、父アブドゥラ

マンさん(40)は7日午後、

上田医師とともに成田空港

へ到着し記者会見。ヒュル

メーテさんは「早く良くな

って、再び3人でコソボで

平和に暮らしたい」と語っ

た。